

第16回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



小学生の部 優秀賞 受賞作品

『新しいまちと古い神社』

神奈川県

湘南ゼミナール 元住吉教室

小学五年 池之上 桜

新しいまちと古い神社

湘南ゼミナール 元住吉教室 小学五年

池之上 桜 (いけのうえ さくら)

じゅくの帰り道、私はモヤモヤしていた。いや、イライラしていた。学年が変わり、順調なはずだった五年生。それなのにクラスの男子は相変わらずさわがしい、そして勉強が一段とむずかしくなった。なんだか、体や頭が重い、気持ちもすっきりしない。毎日、家と学校とじゅくのくり返してつまらない。

そんな時は、じゅくの帰りにお気に入りの場所へ行く。背の高いマンションたちをさけるようにひっそりたたずむとても古くて小さな神社。ここにはブランコがあり、夕方行くと空いている穴場。陽がかげりうす暗い空間でがいに群がる虫の羽の音が静かにひびいている。独り占めのブランコを力強くこぐと、ふわりと浮く体、顔にあたる風が心地よくイライラが少し飛んでいく。さっきまでの教室のさわがしさがうそのような静かな空間。

ふと横を見ると今日は私一人ではなかった。ベンチにおばあさんと白猫が一匹いる。白猫は薄汚れて灰色だったがおばあさんになでてもらい、「ゴロゴロ」きげんに鳴いている。私も猫に触りたくて近づいた。

「この子はずっと地域の人みんなに大切に育てられたから怖くないよ」おばあさんが言う。そつと猫の頭をなでたら目をつつすら細めて気持ちよさそうな顔を向けてくれた。人間に対して怒ったり怖がったりしない。白猫は地域の人たちと相談してもうすぐおばあさんの家で保ご猫になるらしい。

「猫ちゃん、これからは安全なお家の中でおばあさんとくらせるね」私は捨て猫を大切に育ててくれる地域の人たちのやさしさに心がぎゅっとなって声がつまった。そのあとすぐくうれしい気持ちになった。おばあさんと猫にバイバイして神社から家に帰ると中、イライラが全部消えていることに気付いた。

私が住む街は新しいショッピングモールがたくさんある。そこで面白い物をするのが楽しくて大好きだ。でも、夕方に行くあの古い神社の不思議な空間も好きだ。クラスみんなが知らない世界、みんなが知らない私、私も知らない自分に会える場所。